

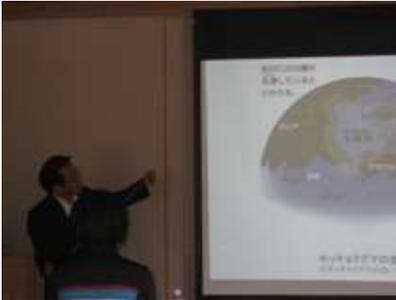
# 環境教育実践 I

## 森林文化教育

日時：平成21年9月19日（土） 10:00～15:00

講師：山下 宏文（京都教育大学教育学部教授）

### 概況



#### 1. 森林環境教育の背景

森林文化教育は森林環境教育と同義で、生産面と環境面を同時に扱う。森林は危機的な状況にある。また温暖化効果ガスの排出削減も差し迫った状況にある。温暖化で海水面が上がり、南の島が沈むことが言われているが、地下からも水が上昇してくる影響も大きい。

環境への理解を深めるため、環境教育推進法「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」が制定された。

こどもの心の問題で、児童殺傷事件の池田小学校では心のケアをするために自然体験をさせた事例がある。

#### 2. 森林環境教育とは何か

森林環境教育は森林を中心とした環境教育である。環境とは、関係をあらゆる概念で、回りのものとの関係を指す。すなわち、環境教育とは、かかわりの教育である。

環境教育のねらいは、環境問題の解決とよりよい環境の創造である。

環境教育の三つの視点は①環境を調べる力・感性②環境に関する正しい認識③環境をよりよくする態度・参加である。

#### 3. 学校教育における「森林」の扱い

「森林」の扱いは、小学校 1,2 学年は生活科、道徳で学習する。小学校 3～6 学年は社会、理科、道徳で学習する。特に小学校 5 年生で初めて「林業」を扱う。中学校 1～3 学年では社会、理科、道徳で学習する。

#### 4. 森林環境教育の進め方

子供は「自然」や「環境」に対する関心は高い。しかし、体験が伴わないため、継続的に発展しない。また森林に対する理解(知識)は不正確である。

森林環境教育で求められる教材とは、美しい森林を実感できること。現実の森林の様子が具体的にとらえられることである。

まとめとして、森林環境教育を進めるポイントは、①「体験の場」としての森林＝森林が豊かな体験を提供する場となること。②「知る場」としての森林＝森林が正しい知識を得る場となること。③「かかわる場」としての森林＝森林がかかわりをつくりあげていく対象となること。が重要である。